

Point

廃校となった小学校を宿泊型交流施設「ふるさと体験交流館」として整備することで、自然等の地域資源の提供と学習を通じた地域間交流を推進し、交流人口を拡大させる。

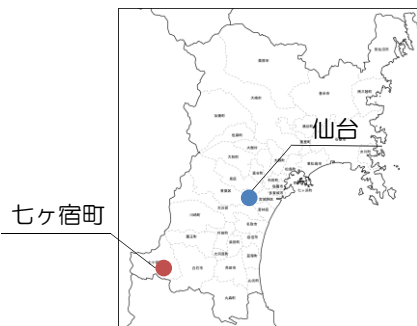
地域の課題

七ヶ宿町の少子高齢化は加速的に進行しており、地域間交流の中心であった小学校がH26年3月に廃校となり、新たな空間づくりが求められている。

このため、住民自らも活動可能で、交流や体験に参加できる愛着の持てる施設を考慮に入れ、移住者増の入口となる観光交流面の弱点である日帰り型、通過型の現状の克服が課題となっている。



位置図



活性化計画

交流人口2,717人増



宿泊型交流施設の整備



しちかしゆく自然体験（農業体験）

- ・都市農村交流の実施
- ・地域住民講師の体験イベント

地域の課題を解決するため、廃校となった小学校を宿泊型交流施設「ふるさと体験交流館」として整備。

施設には研修室、食堂、入浴設備、宿泊設備等を備え、田植えや稲刈りを初めとした様々な地域資源の提供と学習を通じた地域間交流を推進し、交流人口を拡大。

様々な自然体験活動の実施

- ・農林業体験活動の実施
- ・雪国体験活動の実施 等

さらに、交流を通じた農業担い手の確保や耕作放棄地の解消、食育や地産地消の推進等、農業の課題解決を目指し、定住化等による農山村の活性化を実現

交付金事業内容

事業期間：H29年から2年間

事業費：300,000千円（国費150,000千円）

事業目標：滞在者・宿泊者数の増加（10,345人⇒13,062人）

事業主体：七ヶ宿町

事業内容：廃校改修（宿泊施設）1棟 1,415㎡



宿泊施設（完成イメージ）